

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	森朝 紀文
次 長	出山 恭隆
主 幹	射手矢 弥生
主 幹	中川 直樹
主 査	高橋 和代
主 査	泉原 里絵
主 査	馬場 洋子
主 査	安井 結香里
主 査	若林 里絵
主 査	西村 亜希子
主 査	西井 拓人
	河津 敏明
	島田 弘子
	松浪 美和
	宮本 紅喜
	北庄司 敦久
	原 義浩
	宮本 訓子
	小垣 睦
	南 佳代
	山道 麻葉
	上田 祥子
	伊藤 健二
	中川 貴弘
	上見 藍子
	藪内 新平
	山地 亜希

—概要—

薬剤科では、調剤、注射薬の無菌混合調製や服薬指導等のさまざまな業務を行っているが、特に、2012年度の診療報酬の改定により、病院薬剤師の念願であった病棟薬剤業務実施加算が新設されたのを受け、全病棟に病棟専任薬剤師を配置し、オーダー入力支援等の新しい業務を実施することにより算定を行っている。また、2016年度に新設された病棟薬剤業務実施加算2を、集中治療室において算定している。

厚生労働省医政局通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が発出され、薬剤師がチーム医療に参画することが求められており、当院では感染対策チーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームに積極的に参加し、医師、看護師等と共に多職種で病棟ラウンドを実施している。生活習慣病予防教室にも参加し、薬剤師が薬に関する患者向けの講習会を行っている。薬剤科では今後とも、質の高い病棟薬剤業務の実践と有効かつ安全な薬物療法を提供するため、以下の4項目を基本的な理念としている。

《基本理念》

1. 薬の専門家として、患者さんにとって有益な薬物療法を提供する。
2. 薬によるインシデント・アクシデントを減少させ、安全な薬物療法を提供する。
3. 臨床薬剤師として医療チームに貢献する。
4. 薬剤師の職能を高めるため、研究心を持って日々努力する。

—実績—

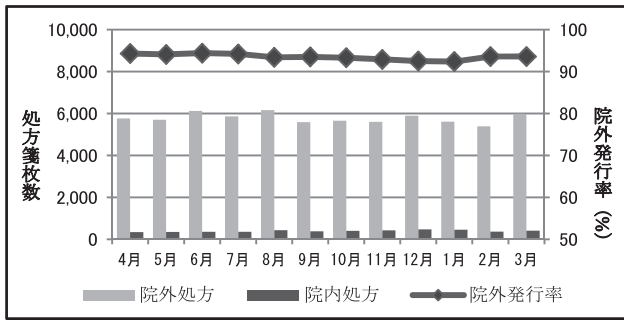
2000年4月より、病院運営の一環として、「医薬分業の徹底と薬剤科病棟業務の充実」に基づき、全面院外処方せん発行を行い、2016年度月平均の発行率は93.5%を達成している。（グラフ1）

薬剤管理指導業務における服薬指導実施患者数及び指導件数については、月平均の指導患者数750名、指導件数903件（退院加算284件）と順調な推移を示している。（グラフ2）

また、無菌製剤処理加算の施設基準を2001年3月に取得し、TPN製剤の調製を行っているが、2010年8月より一般の点滴を含めた全ての注射薬の無菌混合調製を行っている。2016年度における混合調製の実績として、調製本数は月平均714本、年間8,562本となっている。（グラフ3）

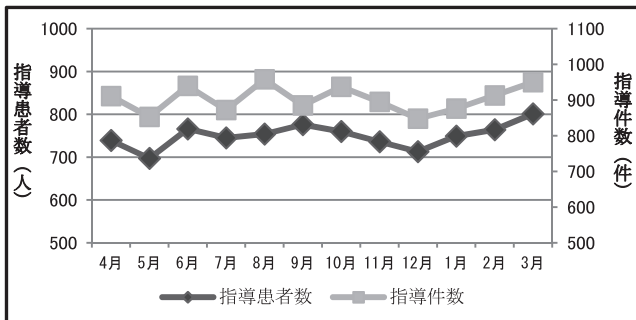
次に、外来の抗がん薬の調製を2002年8月より開始し、2004年12月より外来・入院の全患者について抗がん薬の調製を実施している。2016年度における実績は月平均264名、年間3,164名の患者さんに調製を行い、調製本数は月平均374本、年間4,483本となっている。（グラフ4）また、2014年度より外来がん治療センターにがん薬物療法認定薬剤師を配置し、がん患者指導料3を月平均約20件算定している。

さらに、入退院サポートセンター内に持参薬鑑別コーナーを設置し、入院全ての患者さんの鑑別を2008年4月より開始している。2016年度における実績は月平均397人、2,962剤となった。（グラフ5）



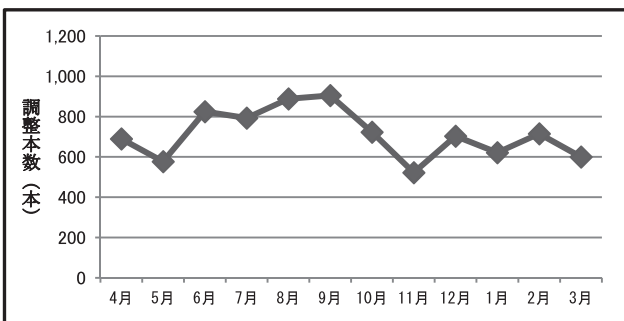
(グラフ1)2016年度処方箋枚数と院外処方箋発行率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
院外発行率	94.3	94.1	94.4	94.2	93.4	93.5	93.3	92.9	92.5	92.4	93.6	93.6
院外処方	5,765	5,704	6,123	5,863	6,165	5,593	5,663	5,607	5,898	5,618	5,394	5,992
院内処方	346	355	362	364	436	386	405	430	476	463	371	413



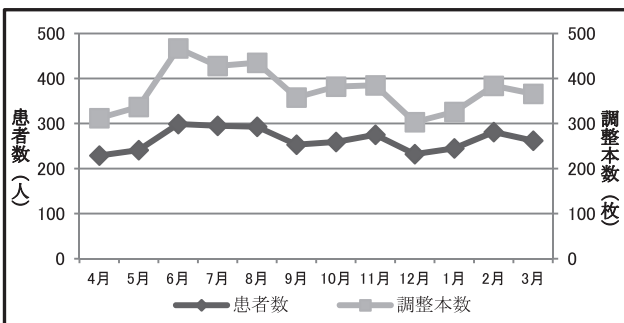
(グラフ2)2016年度服薬指導実施患者数・件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指導患者数	739	697	766	745	754	776	760	736	713	749	764	801
指導件数	911	853	940	872	958	885	937	895	848	876	913	950



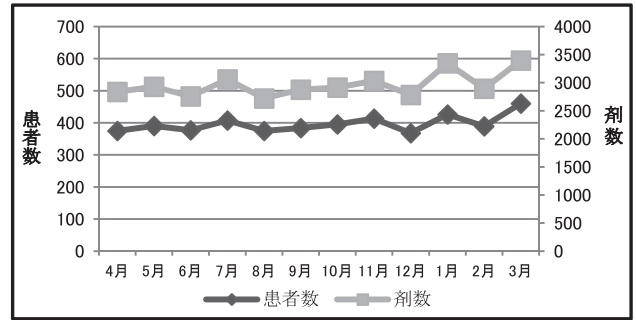
(グラフ3)2016年度注射薬無菌調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調製本数	690	577	825	793	888	905	723	522	703	621	715	600



(グラフ4)2016年度抗がん剤調製患者数・本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	229	241	299	295	293	253	259	275	232	245	281	262
調製本数	312	337	467	428	435	358	382	385	303	326	384	366



(グラフ5)2016年度持参薬鑑別患者数・剤数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	375	390	377	407	375	384	395	413	368	426	389	460
剤数	2837	2928	2758	3060	2720	2877	2913	3034	2784	3347	2893	3396

### —今年度の成果と反省点—

今年度は、診療報酬の改定により集中治療患者の薬剤管理指導料が削除されたことと、2名の退職者の補充と新人薬剤師の教育に時間がかかり、薬剤管理指導業務における服薬指導実施件数が昨年度より減少した。しかし、集中治療室にも病棟専任薬剤師を常駐することにより病棟薬剤業務実施加算2を算定することができた。すべての病棟に専任薬剤師を配置することにより医師、看護師との役割分担業務を展開し、チーム医療に大きく貢献できていると思われる。

### —来年度への抱負—

薬剤管理指導業務は、服薬件数を増加させるのみではなく、質を向上させる取り組みを行いたい。そのために、がん、感染等の各領域での認定、専門薬剤師の資格の取得を推進していく予定である。

